

## 第4B (小) 分科会 —組織・運営に関する課題—

提案主題 『芯の通った学校組織』定着に向けて取り組む学校体制の推進  
—大規模校の特色を生かした学校組織の改編を中心にして—

司会者	大分市立敷戸小学校	廣末	伊智郎
提言者	大分市立滝尾小学校	尾島	範昭
助言者	大分市立長浜小学校校長	阿部	泰三
記録者	大分市立吉野小学校	坂井	洋子

### 1 討議の柱

- ・企画委員会・分掌部会（学年会）・職員会議が有機的に機動的に連携する学校体制とは

### 2 協議の実際

#### (1) 質疑・応答

Q：教頭の役割 → A：各主任とコミュニケーションをとりながら、説明してきた。

Q：部長制での主任の位置 → A：二人の関係は良好。主任は部長を信頼している。

Q：教職員の意識改革 → A：「決定は企画委員会」「職員会議は共通理解の場」を徹底。

#### (2) グループ協議発表

- ・学校規模は違うが、運営委員会は重点目標に関連することを中心に行っている。運営面では、分掌会議の確保と主任の育成が必要である。教職員とのコミュニケーションや、つながりを大切にしている。
- ・教職員の意識改革に苦心している。企画委員会と職員会議の内容の整理をした。また、分掌部会の活性化のため、主要なものは校時表に位置づけ、時間を保障している。
- ・ミドルリーダーの意識を変えていく必要がある。校長が伝える場としては、面談や校長通信である。その中で、情報や資料等を全体に拡げている。企画委員会は、学校実態に合った形を創っていく必要がある。
- ・大規模校では組織が定着しつつあるが、小規模校では難しい面もある。児童や生徒との時間を確保するため、回覧等で周知し、会議をできるだけ減らすようにしている。
- ・分掌部会の時間を確保することで、ミドルリーダーがリーダーシップを発揮し、責任感も出てきた。しかし、会議も多くなったため、子どもと向き合う時間の確保が必要である。

### 3 指導助言

- ・「芯の通った学校組織」推進プランも第4フェーズに入った。企画委員会が機能すればスムーズな学校運営ができる。その中で大事な事は、各主任や担当者が「やりがい」を持って仕事をしているかである。管理職が「任せた」と言うことで、職員は責任感や意欲を持って取り組むことができる。
- ・自分の転機をふり返ってみても、教員は「子どもの変容」や、「先輩や同僚からの声かけ」により、「やりがい」を見つけ次につながるができる。そのため、管理職は、適宜「よい評価」を与えることが大切である。それが、個人の意欲を高め、次につながる。
- ・「5点セット」の達成のため、まず動くことが大切である。今は過渡期である。教頭が学校運営の中心となって取組を推進してほしい。